

LUNA の利用実績とお知らせ	1
LUNA 活用事例紹介	2
「Turning Point」活用事例	6
講演会・ワークショップ開催報告	7
お知らせ	8

＝第7号発行にあたって＝

関西学院はこの秋に創立125周年を迎えました。19人の学生・生徒と5人の教師で始った原田の森の時代とは、高等教育機関をとりまく環境は大きく変化しています。2万人を超える学生・院生・教員の Learning Management System である LUNA は、2010年9月の稼働以来やっと5年目を迎えたところです。学院の歴史の中ではまったくの新参者です。それでも、教員側においても学生側においても毎年着実に LUNA の利用率は増加しています。LUNA は教育改善のための一つの道具であり、それを利用する教員・学生のアイデアに応じて様々な可能性を含んでいます。今回のニュースレターでも、関西学院大学の教育力向上のために、いくつかの LUNA 活用事例を紹介していきます。

その他には、当センターが所管する研修会や勉強会の模様をお伝えします。当センターは、学内・学外の関連機関と連携して、教育実践に役立つ情報を学内構成員の皆様と共有すべく、定期的にイベントを開催しています。新任教員のための研修にとどまらず、多くの教職員に活用いただけるであろう新たな教育技法の紹介も行っています。皆様のご協力と積極的な参加をお待ちしております。

高等教育推進センター副長（高等教育推進センターニュースレター編集長）中野 康人



◆ 2013年度のLUNAの利用実績は昨年度を上回りました

2013年度の利用実績の集計を行いました（下表）。

	指標項目	指標の定義	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1	LMSを利用する授業科目の比率	全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。)	12.2%	34.6%	35.7%	38.7%
2	LMSを利用する専任教員の比率	全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率(LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。)	53.9%	59.4%	60.9%	69.8%
3	LMSを利用する学生の比率	LUNAにアクセスした学部学生数÷在籍学生数(学部)(1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする)	65.8%	85.9%	89.0%	92.0%

LUNA を利用する授業科目の比率は 38.7%、専任教員の利用率は 69.8%、学生の利用率は 92.0%と、すべて項目で過年度の実績を上回ることができました。

◆ LUNA サポートでは以下のサービスを提供しておりますので、ご利用ください

- ◎電話・メールサポート…電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート……………研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数いずれでも対応します
- ◎来室サポート……………高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします
- ◎学生向け説明会……………先生に代わって LUNA の操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎ハンドブック……………教員向け・学生向けがそれぞれあります
- ◎LUNA サポート……………LUNA 内に詳細なマニュアルを掲示しております

◆高等教育推進センター 内田啓太郎先生の活用例◆

- ・ LUNA を使っている科目
⇒【演習系授業】 共通教育) スタディスキルセミナー (プレゼンテーション)
- ・ LUNA を使っている科目のクラス規模 ⇒小規模クラス、PC 教室で行う
- ・ LUNA を使っている科目の配布物 ⇒紙の配布物は、ほとんどありません



◆ポータルサイトのように利用しています

LUNA にアクセスすれば、授業に必要な情報(外部サイトを含む)がすべてワンストップで提供できるように構成しています。

授業内でのグループワークの記録をコンテンツとして掲載し、参照ページや外部サイトにリンク付け

第9回(6月3日)2回目のプレゼン準備開始:テーマの選定&三角ロジックの構築

* 2日目プレゼンは第12回(6月24日)と第13回(7月1日)の授業にて実施します。

きょうの内容

- 2回目プレゼンの詳細 → **コチラ**をよく読むこと
- 新グループ発表/グループ分け
- プレゼンの準備作業:グループワーク
 - ・ テーマの選定 → 8つの中からひとつを選ぶ/テーマの重複はNG
 - ・ 情報検索&マインドマップ → マインドマップのやり方は **コチラ**を参照のこと
 - ・ 三角ロジックを考えよう
- 授業のふりかえり&次回予告



授業のふりかえり

- ・ 授業終了後に、LUNAのブログに活動日誌を書く → メンバーで分担して書きましょう
- ・ LINEでグループをつくり、メンバー間の連絡や打ち合わせに活用します。内田のIDは **_____** ですので追加し
- ・ ホワイトボードの記録とグループワークの成果は **コチラ**からご覧下さい(授業終了後に掲載予定)。

グループワークの成果物

第9回(2014年6月3日)2回目プレゼンのテーマを考えよう/グループワークでマインドマップ(1組)

Aグループ(401) 2回目プレゼンのテーマ選定 グループワークでマインドマップ (4) (更新:2014年6月3日)

Aグループ(402) 2回目プレゼンのテーマ選定 グループワークでマインドマップ (4) (更新:2014年6月3日)

Aグループ(403) 2回目プレゼンのテーマ選定 グループワークでマインドマップ (4) (更新:2014年6月3日)

説明の詳細

2回目プレゼン詳細

プレゼンのテーマ

2回目のプレゼンのテーマは以下に挙げるものからひとつを選択します。テーマの重複は認めませんので、希望がかなる場合はグループ同士の間で決めてください。 → 6月3日の授業にて以下のように決定しました。

- ・ 日本の大学教育 → Aグループ
- ・ クールジャパン → Fグループ
- ・ 日本のエネルギー問題 → Cグループ
- ・ 地方(地域社会)の活性化 → Bグループ
- ・ 日本の第一次産業 → Eグループ
- ・ 日本国憲法
- ・ ワークライフ・バランス → Dグループ

各テーマは少し詳しくしたのですが、これからのグループワークをより具体的に進めるためのテーマを考えていきましょう。もちろん自分たちのグループでプレゼンできるものではないかもしれません。

スライドの形式など

基本的にPowerPointでスライドを作成し、たいていプレゼンすることになります。もし他のソフトウェアを扱いたい、というグループは事前に相談ください。プレゼン終了後にスライドのコードを内部に提出してください。個人情報関係の後ネット上で失礼します。またプレゼンの様子は録画します。これはLUNAからの閲覧できるようにします。

参考にする教材

マインドマップ(2013年10月版)

- 添付ファイル
- 添付ファイル:マインドマップのやり方 (1.414 KB)
- マインドマップ作成(更新:2014年6月3日) (167.449 KB)

マインドマップについて

「マインドマップ」は英国のトニー・ブザンが1970年代に開発したアイデア出し、メモやノートを取るためのスキル。日本では2005年ごろから話題になってきた。

マインドマップの特徴

日本のマーケティング/コンサルタントの中谷健一による「マインドマップ」の特徴は以下の通り。

- ・ 中心テーマの設定
- ・ 基本アイデアの書き出し
- ・ 話題の関連づけ
- ・ 階層づけ
- ・ 強調
- ・ イメージ化

マインドマップを作成する過程で、アイデアや発想、気づきなどが(ある意味勝手に)出てくる。このスキルの面白さは、つまり思考しながら書く/書きながら思考するためのスキルと言えます。

マインドマップのやり方(超簡易版)

マインドマップの「コツ」として以下の項目を押さえておきます。先述の中谷健一によると、

1. 思いっぴのままに連想、で自由に書き出す

グループワーク中に履修生がホワイトボードに書き出したことを教員がデジカメで撮影し、flickr にアップロードしています。アップロード後すぐに、このサイトのリンクをお知らせ機能の一斉メールで学生に送信しているので、履修生はLUNAを介さず直接閲覧することも可能です。但し、メールのようなフロー情報は後から振り返る場合に不便なため、いつでも参照できるストック情報としてLUNAにもリンクさせています。

【使用して良かった点】

- ・ 昨年度使用した教材を一部変更して再利用したり、間違いを訂正したりする際のアップデートがとても簡単
- ・ 今回のバージョンアップでテキストエディタが使いやすくなった

◆ピア・エデュケーションの場としての LUNA

グループワークが必須のプレゼンテーションの授業で、履修生同士および履修生と教員・LA との意見交換や相互評価に LUNA を活用しています。

▶ 履修生はグループワークの内容をブログに記録

記入のルールや「ファイル添付が可能」というようなブログの使い方は、教員があらかじめ記載しておきます。

履修生は、グループワークの内容を記入し、プレゼンに使用するスライドの下書きを添付します。



▶ プレゼン後には履修生による自己評価を含め、教員・LA・履修生で相互評価を実施

第12回(6月24日) 2回目のプレゼン実施(前半)

- きょうの発表グループは E, C, D の順番です。
- プレゼンの準備作業
 - スライドのファイル(PowerPoint or PDF)を教員のPCにコピー

・Dグループの発表 ← Fグループが考える

・きょうのふりかえり/次回の予告

- 授業終了後、手元のルーブリック用紙にもどついで、LUNAの相互評価アンケートに回答する
- 遅くとも6月25日(水)の19時ごろまでに回答すること
- 集計結果はLUNAに掲載します

授業のふりかえり

- ホワイトボードの記録とグループワークの成果はコチラからご覧下さい(授業終了後掲載予定)。

授業内でルーブリック用紙を配布し、そこに書き込んだ内容をもとに授業後 LUNA の相互評価アンケートに回答するよう履修生に指示しています。

プレゼンテーションのルーブリック (評価指標)

評価項目	点数	3	2	1	0
テーマ	プレゼン全体のテーマは提示されている	独創的かつ明確である	適切に示している	説明が不十分である	示していない
内容	プレゼンの主眼や論点は提示されている	独創的かつ明確である	適切に示している	説明が不十分である	示していない
題名	インパクトがあり、発表内容との整合性がある。	独創的かつ明確である	適切である	説明が不十分である	示していない

【使用して良かった点】

どこからでもアクセスすることができ、履修生、教員、LA 全員で速やかに情報共有できる。

アンケートの集計結果を教員が集計し、別途掲載しています。

質問 3: 評価尺度/リッカート

インパクトがあり、発表内容との整合性がある。

評価項目	解答のパーセンテージ
独創的かつ明確である	42.105%
適切である	36.842%
説明が不十分	21.053%
示していない	0%
未解答	0%

◆理工学部 ダニエル・パーソンズ先生 の活用例◆

・LUNAを使っている科目

⇒英語ライティング、英語コミュニケーション、科学技術英語

【クラス規模】20～30名 【授業形態】外国語 【配布物】多い

・LUNAを使用するようになった経緯

⇒前任の先生から聞いてLMSがあるのは知っていたが、使い方が解らず

使用していなかった。興味はあったので、まずは1つのクラスで試験的に使用してみて、

うまくいきそうだと判断できたため今年から使っている。



◆ライティングのクラスでグループ機能とコミュニケーションツールを活用しています

4～5名のグループを作り、「日誌」機能を使ってグループメンバー全員がエッセイを書いた後、メンバー同士でコメントし合うフィードバックを行っています。

The screenshot displays the LUNA interface for a group blog titled "Paragraph 3: Improving KGU Sanda Campus 1". The main content is a student's essay discussing campus improvements like Wi-Fi, dining room, and food prices. Below the essay, there are several comments from other students providing feedback. A callout box on the right explains that teachers use the feedback to provide advice and notes on points to pay attention to, and then post the results. Another callout box on the left explains that in a paper-based setting, teachers would have to check individual submissions, but in LUNA, they can see all comments at once and provide overall feedback. A third callout box on the right explains that students can freely comment on essays they are interested in.

紙ベースでこの作業を行う場合、教員は授業後に履修生が提出したものを個別に見なければなりません。この方法なら誰がどれを見て何について書いているのかが一目でわかるので、内容を整理しやすく、すぐに次の指導方法のことも考えることができます。

例えばコメントを一覧で見て、全体的に指摘の書き出し方が唐突だと感じれば、次の授業で丁寧な言い回しを指導します。

教員は総評としてアドバイスや注意点などを記入し、成績を付けます。

履修生は自分が興味を持ったエッセイに自由にコメントをつけることができます。

【使用して良かった点】

- ・教材を LUNA にアップロードできるようになり、紙で配布する量をかなり減らすことができた。
- ・成績管理画面で宿題の提出状況がすぐ確認できる。
- ・自動採点のテストを活用して採点時間を短縮できるようになり、授業のことを考えるのに回せる時間が増えた。
- ・一対一のコミュニケーションだけでなく、複数で同じものを見て相互にフィードバックが行える。

◆コンテンツ数が多いときは「学習モジュール」が見やすい

「学習モジュール」とは、目次を作ることができ、たくさんのコンテンツを一覧することができる機能です。

例えば履修生に宿題を出したとき、それに必要なものをすべて「学習モジュール」としてまとめ、履修生が一覧できるようにしています。

8つの読み物の中から1つを選び、それを読みながら掲示板に参加して最終的にサマリーを書くという宿題に必要な下記のコンテンツ(合計18個)を、目次で一覧できるようにしています。

- ①この宿題についての解説
- ②読み物(外部サイトのリンク)とそれに対応する掲示板のフォーラム(科目内掲示板のリンク)
- ③サマリーを記入するための日誌

学習モジュール

コンテンツの編集が可能な教員の画面では、メインエリアにすべてのコンテンツが表示されますが、「編集モード」をOFFにすると、学生画面ではどのように表示されるかが確認できます

【学習モジュールとコンテンツフォルダの違い】

どちらも「教材・課題・テスト」エリアに作成します。

コンテンツフォルダ

アップロードするコンテンツが多く、コンテンツフォルダでは一画面ですべてのコンテンツを表示させることができないような場合でも、学習モジュールでは目次が表示されるので便利です。

学習モジュール

0426講義ノート.pdf
ファイルが開かない場合は、ここをクリックしてダウンロードします

Sample File

◆共通教育センター 池田瑞穂先生の活用例◆

- ・ いつからコミュニティを開設していますか？
⇒ 2011年より年度ごとにコミュニティを開設
- ・ LUNAでの利用目的を教えてください
⇒ 授業補佐（SA）、授業コーディネータおよび担当事務方のSA業務報告書等の情報共有を行うため



◆情報科学授業補佐コミュニティを作成し、SA業務の情報を蓄積し、共有するためにコミュニティを活用しています。

【LUNAを活用する前の問題点】

- ・ 業務報告書を紙で管理していた → ファイルの保管場所でのみの閲覧のため、不便
- ・ 授業補佐業務が個人スキルに依存していた → SA同士の情報共有ができていないため、SAのスキルのアップにつながらない
- ・ 授業中に発生した障害の経緯がわからない

【LUNAのコミュニティを活用後】

- ・ 情報が学内サーバに保管されるので管理者として安心
- ・ SA同士の情報共有がスムーズにできる → 授業補佐ノウハウ集を掲載
業務報告書がいつでも閲覧でき、代理で授業補佐に入る場合に情報収集できる
障害報告の経緯を掲載



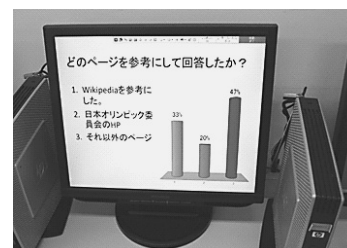
「Turning Point」活用事例

活用事例報告「Turning Point」を利用した図書館講習会

大学図書館では、昨年12月に教職員を対象としたFDワークショップ「Turning Point」を利用した能動型授業のススメに参加いただき、春学期に基礎演習の授業内で実施する文献の探し方講習会でTurning Pointを活用されました。

講師をされた大学図書館の瀬戸口さんは「講習会では、講師が説明したとおりにパソコンで検索実習を行う時間が長く、どうしても授業が講師から学生への一方向で展開されるため、一体感を持って講習会を進めるのが難しいこともあった。しかし、途中にアンケートを入れて、その場で学生と結果を共有したり、意見を聞いたりすることで、いい切り替えになり、説明をよく聞いてくれるようになった。クリッカーを利用した講習会と利用していない講習会では、学生の反応が全く違う。また、最初に『朝食を食べたか』など、講習会と関係のない質問をすることで、アイスブレイクにもなる。今年は試験的に導入したが、次年度以降も、継続して利用していきたいと思っている。」とのことでした。

Turning Pointは、今回のような20名弱の授業（講習会）から大人数の授業まで、双方向で授業を実施することができ、アクティブラーニングでの活用も期待されています。高等教育推進センターで貸出を行っておりますので、どうぞご活用ください。



FDに関する講演会—2014年度新任者教員研修会— 『『授業に関する調査』結果からみる本学の教育状況について』

開催日時：2014年4月5日（土）15:00～16:00
講演：平林 孝裕氏（高等教育推進センター長）

本学に新たに着任した教員を対象とした、新任者教員研修会が4月5日（土）9:00～16:00まで開催された。村田治学長から「関西学院大学の教育目標」についての講話をはじめ、教務機構、研究推進社会連携機構、大学図書館から各業務や制度についての説明がありました。

そして午後からは、高等教育推進センター主催で、LMS講習会とFDに関する講演会『『授業に関する調査』結果からみる本学の教育状況について』が開催されました。

FDに関する講演会『『授業に関する調査』結果からみる本学の教育状況について』については、平林高等教育推進センター長より、前年度に実施された授業調査の結果報告書をもとに、本学学生の学修時間や授業の満足度についての分析を説明しました。また本学では、教員個人のFD活動を推進するだけでなく、提供部署単位でのFD活動や全学的なFD活動を推進していることを紹介し、参加者にFD活動への積極的な協力を依頼されました。

講演終了後に実施したアンケートからも、「学生が教員や講義の内容をどう思っているかは、非常に大切なので是非活かしたい」、「どのような点に気をつけながら講義を行なうべきか明確になった」等、授業に対する前向きな意見が多く寄せられ、FDについて更なる意欲を感じさせる非常に有益な講演会になりました。



FDワークショップ：大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」

開催日時：2014年9月8日（月）～9日（火）
講演：倉茂好匡氏（滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長）

このワークショップは「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」の一貫として、本学との共催事業となっています。

本ワークショップは、専任教員・非常勤講師及び大学で講義担当を目指す大学院生等を対象としたもので、1日目のみ、2日間連続参加の選択が可能で、視聴覚教材、グループワーク、宿題、ルーブリックといった内容について実習を交えて学びました。

申込者数は、初日が30名（関西学院大学から12名、関西地区FD連絡協議会加盟校から18名）、2日目が20名（関西学院大学から10名、関西地区FD連絡協議会加盟校から10名）でした。

9月8日（月）

講義「視聴覚教材を用いる授業のために」
講義「授業に学生を『参加』させるには」
グループワーク「宿題と評価」

9月9日（火）

講義「ルーブリックによる評価」
個人ワーク「ルーブリックを作ってみよう」
グループワーク「各グループ内で完成させたルーブリックの発表」



なお、ワークショップ終了後にアンケートを実施したところ、主な感想は以下のとおりでした。

- 映像の見せ方、パワーポイントの作り方など、自分の授業を見直すきっかけになった。
- 視聴覚教材の位置付けについて再考したいと思いました。
- グループワークを実際に体験することで参考になった。
- 授業の構成方法、グループワークの方法やVTRの使い方も学べた。

第6回 EMIR 勉強会

<概要>

主催 : 山形大学エンrollment・マネジメント部
 共催 : 関西学院大学
 開催日時: 2014年9月19日(金) 13時30分～17時05分
 2014年9月20日(土) 10時00分～15時30分



9月19～20日に、H号館301教室にて、第6回EMIR勉強会を開催され、およそ200名の方が参加いたしました。

EMIR勉強会は、国内外の先進事例を持つ大学や企業の幅広いナレッジを集積し、オープンな議論を進め、日本の大学IRの進展に寄与することを目指して、2011年から開催されている勉強会です。

1日目は、高等教育推進センター准教授の江原昭博氏から、日本におけるIRの現状について、また、佐賀大学IR室室長の西郡大氏、茨城大学評価室助教の嶋田敏行氏より、それぞれの大学におけるIRの取組について紹介いただきました。

2日目は、大学IRソリューションについて、先進的に取り組んでいる企業からの事例紹介ののち、アメリカで州政府やコミュニティカレッジ等でIRの実務に携わり、現在は、コンサルタントとして活躍されている柳浦猛氏より、アメリカにおけるIRの組織運営、人材育成についての講演がありました。柳浦氏からは、アメリカと日本では組織運営やデータ環境などが大きく異なっているため、日本の現状を意識した上でIRに取り組む必要があることや、アメリカにおいては、IRはもはや統計に長けた研究者だけでは務まらず、データガバナンスに精通し、問題解決能力やリーダーシップのある人物がIR部門に求められるようになってきていることなど、本学においてIRへ取り組むうえで重要な示唆を得られました。

各セッションともに、フロアから多くの質問があり、様々な視点から、エンrollmentマネジメントやIRについての議論が行われました。特に柳浦氏の講演では、1時間にもわたり質疑応答が行われ、先行するアメリカのIRを取り巻く状況への関心の高さがうかがわれました。

お知らせ

2014年度「学生による授業に関する調査」について

本学では、2005年度から統一的な方式で、全学的に学生による「授業に関する調査」を実施しています。2014年度春学期の実施率(マークシート方式)は99.5%(2013年度春学期98.9%)であり、多くの先生方のご協力によりほぼ全ての授業で実施されました。

また、2012年度より実施しましたWebによる調査方式は、認知度の向上に伴い、Webの対象科目のうち学生からの回答があった科目は全体の52.1%(2013年度春学期54.0%)に達し、半数以上の科目で回答がありました。

本調査の目的は寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むことや、授業環境について組織的な改善に結びつけることです。(各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「各学部のFD活動」をご覧ください。)

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◇「学生による授業に関する調査」(秋学期)

<マークシート方式実施日>

2014年12月8日(月)～12月12日(金) [予備期間: 12月15日(月)～12月19日(金)]

<Web方式実施日>

2014年12月8日(月)～2015年1月9日(金)

※実施要領・実施科目などの詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者宛にご連絡いたします。

高等教育推進センターニュースレター

2014年11月1日

発行: 関西学院大学教務機構高等教育推進センター

TEL: 0798-54-7420 FAX: 0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<http://www.kwansei.ac.jp/cerphe/index.html>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せ下さい。寄稿も歓迎致します。✉ HighEdu@kwansei.ac.jp